

## 東大物性研究所 液化室だより

### 1、6月16日（水）は液体ヘリウムの供給は中止します

前号の「液化室だより」でお知らせしましたように、6月16日（水）は東京都庁による高圧ガス設備の立入検査があります。このため当日の液体ヘリウムの供給はできなくなりました。前週と当日合わせてヘリウムが出ない日が続きますが予めご承知おき下さい。

なお、当日および当日に向けて準備をする必要がありますのでご協力をお願いします。

- (1) 液体窒素の汲み出しは当日の午前中までに済ませてください。（検査中は汲み出しできません）
- (2) 当日はヘリウムガスポンベの引き渡し、引き受けは致しません。前日または翌日をお願いします。
- (3) 検査中にヘリウム回収用のコンプレッサーが作動すると大変危険なので、ヘリウムの実験は極力控えて下さい。
- (4) 液化室内や窒素貯槽周辺の清掃、ペンキ塗り等の整備を行いますのでご協力をお願いします。
- (5) 廊下にポンベを放置しないで下さい。やむを得ずポンベを置く場合は必ずクサリ、ロープ等でしっかり固定して下さい。

### 2、高圧ガス保安教育（新人対象）終了

去る5月17日に行いました高圧ガス保安教育には物性研、生産研の教職員、大学院生及びそのほかの方合わせて44名が出席しました。

近年、高圧ガスによる事故が相次いで起きています。高圧ガスはちょっとした油断や慣れ、手抜きをすると即、事故に結びつきます。そしてなによりも高圧ガスによる事故の特徴として生命に直接かわる確率が非常に高い、ということです。例えば爆発や窒息事故に遭遇して死を免れたとしても後遺症が残ることが多く、研究や仕事を断念せざるをえなくなる事態に追い込まれる例が多々あります。

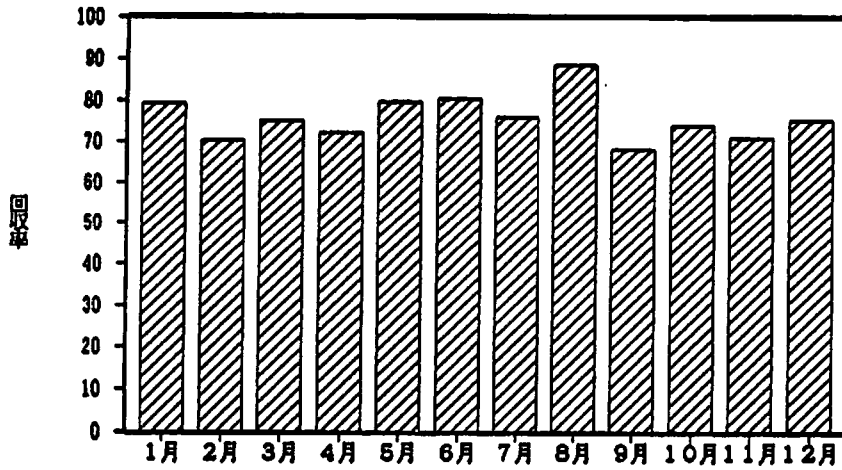
また、比較的多い事故として凍傷があります。凍傷は小さなものならば自然に治癒しますが、寒剤を大量に浴びたり目に入ったときは病院に行く必要があります。

事故が起きないよう細心の注意をはらって高圧ガスを取扱って下さい。

### 3、液化機の更新要求の資料として全国の主要大学に液化機の設置年や能力、供給量についてのアンケートをお願いし、まとめてみましたが、多くの大学ではここ数年で液化機が更新されたこともあって液化能力と供給量のバランスがよく、十分な供給能力があると感じました。これに対し、物性研は供給量は1、2位であるにもかかわらず、液化機的能力は中規模であり、供給と液化能力に大きなアンバランスがあることが分かりました。一日も早い更新を熱望しています。

なお、アンケートにご協力いただいた大学には感謝しております。

1992年年間回収率



1992年年間回収率

	回収量	供給量	月始在庫	月終在庫	回収率
1月 (1/13~2/3)	4367.5	6038.5	2032.5	2555.0	79.2
2月 (2/3~3/2)	5492.3	7664.6	2555.0	2394.7	70.2
3月 (3/2~4/6)	5876.2	6790.9	2394.7	1346.0	75.0
4月 (4/6~5/6)	4570.0	7074.0	1346.0	2090.5	72.2
5月 (5/6~6/1)	3620.9	4302.5	2090.5	1844.6	79.6
6月 (6/1~7/6)	5491.3	6983.0	1844.6	1988.6	80.3
7月 (7/6~8/3)	4888.1	6748.0	1988.6	2292.9	75.9
8月 (8/3~9/7)	5669.0	6214.5	2292.9	2091.2	88.4
9月 (9/7~10/12)	4977.8	7870.0	2091.2	2662.8	68.2
10月 (10/12~11/9)	5059.2	6794.4	2662.8	2613.0	73.9
11月 (11/9~12/7)	4771.0	5727.0	2613.0	1624.0	71.0
12月 (12/7~1/11)	5177.4	7785.5	1624.0	2532.0	75.3
		79992.9			75.8